

名前：

さかしで

現代には、インターネットを使うと、すべてができる。しんを見るときいを読むのはもちろん、ニュースももうテレビじゃなくパソコンで見ることができるようだ。その結果で本やマンガも昔みたいに売られないそう。こんな時点で、そのないようが十分インターネットで利用できる新聞と雑誌が必要なのか。

もう、新聞社はみんなきいをのせるのか。新聞社は記者が書いたきい全部を読者に見せるのではない。新聞社はみんなそれぞれの思想を持っていて、その思想によってきいをせんたくしてわれらに見せるのだ。たとえば、ほしゅけいこの新聞社は、そのけいこうに反するきいは読者に見せようとしないうのだ。これは情報のとうせいとゆうより、新聞社が自分の意見を知らせるひとつの方法とゆうことができるだろう。

反面、インターネットでは、そのきいがどんな新聞社のものかにはかわらず、すべての

きいを見ることができるよう。しかし、ふつうにインターネットサイトでいちばん先に見えるのは社会もんだいなどについてこのきいじゃなく、スポーツとか歌手やスターのきいがある。そんなきいには、なにか社会に対して考えてみるきっかけとか、誰かの思想とかはひとつも入っていない。つまり、人間の社会的思考やハッセンにはべつに役に立たないきいたちなのだ。

それで、みんなにインターネットを自由に使えるかんきょうになっても、新聞や雑誌は社会人には必要だと思う。新聞や雑誌を読む方が、もっと深度のあるきいを発見するのがやさしいし、読者自分の考えを立つ時にも役にたつのだろう。